市内で観察できる動植物（高瀬・山寺）

ニッコウキスゲ
＜ユリ科＞
　ニッコウキスゲといえば、大概の人は高山に咲いている植物と思われるかもしれませんが、置賜盆地から村山盆地にかけて、海抜１５０ｍから３００ｍの山麓地域にベルト状に自生しています。高瀬地区もその一部です。
（花期５月）

イワキンバイ
＜バラ科＞
　バラ科の多年草です。山形市内の奥羽山系雁戸山から奥山寺にかけての岩場でよく見かけることができます。元々生育条件の弱い植物ですので、これからも見守っていきたい植物です。遊仙峡でも見られます。
（花期６月～７月）

コガネシダ
＜ホウライシダ科＞
　県ランク絶滅危惧ⅠＡ類のシダ類で、暖地系の着生シダの一つです。県内唯一の産地であり、全長数㎝の小型シダで、葉面に軟毛を密生させます。岩場に張り付いていて、生育条件の弱い、見守ってやりたい植物です。
（山形県版絶滅危惧ⅠＡ類）

ニオイシダ
＜オシダ科＞
　県ランク絶滅危惧種ⅠＡ類のシダ類で、寒地系の着生シダのひとつです。県内唯一の産地で、数も少なく、絶滅が心配されます。古い葉を株もとに残して保水と保温に使っていると考えられています。見守ってやりたい植物です。
（山形県版絶滅危惧種ⅠＡ類）

ウラジャノメ
＜タテハチョウ科＞
　山形県では奥山寺にのみ生息しており、全国的に見ても本州北限の生息地で、飛び離れて孤立した産地となっています。成虫は７月に姿を現しますが、個体数も少なくなかなか見ることは困難です。

ルリクワガタ
＜クワガタムシ科＞
　体長１０㎜～１３㎜の小さなクワガタムシで、羽はメタリックな青緑色に輝きます。奥山寺の二口峠を中心とした森林に生息しています。実際にその姿を見ることはなかなか難しいのですが、本種の生息は山寺地区の自然度の高さの証と言えます。

「山形の自然」より

ニイニイゼミ
＜セミ科＞
　松尾芭蕉が山寺で詠んだ「閑さや岩にしみ入る蝉の声」のセミの正体が本種です。アブラゼミ説の斉藤茂吉とニイニイゼミ説の小宮豊隆の論争は有名ですが、芭蕉が訪れた時期のセミの鳴き声を実際に調べ、決着したようです。
（出現時期７月上旬～中旬）

「山形の自然」より

カモシカ
＜ウシ科＞
　里山から高山までの森林で普通に見られ、多くは１～２頭で生活しています。食べ物は植物だけで、樹木の葉が主な栄養源ですが、農作物や果実などを食害することもあります。国の天然記念物で、山形県の県獣です。

「山形の自然」より

ニホンザル
＜オナガザル科＞
　普通は群れで目撃されることが多く、まれに１、２頭の離れザルを見ることもあります。山形市では奥羽山系の低山帯の森林が群れの主な遊動域ですが、しばしば農耕地にも出没して農作物に被害を与えることがあります。

「山形の自然」より

ハクビシン
＜ジャコウネコ科＞
　一見タヌキやイタチに似ていますがジャコウネコ科の動物で、外来種とみられています。近年内陸盆地の低山帯や集落周辺で分布域を広げ、個体数を増やして定着しています。畑作物や果実類を食害することがあります。

「山形の自然」より

トウホクサンショウウオ
＜サンショウウオ科＞
　春、緩い流れの水溜まりのようなところに産卵し、夏、小さな沢の水溜まりなどで、幼生となった姿を見かけることができます。成体は、背面が暗褐色～黒褐色で淡い斑点があり、腹側は灰白色で微小な褐色斑が密にあります。

写真提供：簗川堅

ハヤブサ
＜ハヤブサ科＞
　翼の幅は太めで先端は尖っています。下面は白っぽく細かい横縞があり、ケーケーケと鳴きます。翼をすぼめて急降下し、獲物を足で蹴り落としその後押さえます。海岸などの断崖で繁殖し、水鳥の多い湖沼や海岸でよく観察されます。（留鳥・漂鳥）

写真提供：簗川堅

ミソサザイ
＜ミソサザイ科＞
　全体に縞模様のある黒褐色で、「ピピスクスクスケスチルチルヒョロヒョロ」と長くさえずります。主に山地から亜高山帯の渓流沿いや岩のある林に生息しています。小さな昆虫やクモなどを食べ、コケで球形の巣をつくります。
（留鳥・漂鳥）

「山形の自然」より

オオルリ
＜ヒタキ科＞
　夏鳥として渡来し、山地の渓流沿いの林に生息します。オスは体の上面が濃い青色をしています。さえずりは「ピールリー　ポーピリーピピ」と歌い、ウグイス、コマドリとともに日本の三鳴鳥のひとつです。飛んでいる昆虫を捕らえます。
（夏鳥）

「山形の自然」より

キビタキ
＜ヒタキ科＞
　夏鳥として渡来し、平地から山地の広葉樹林に生息しています。オスは眉斑、下面は黄色で、のどから胸は橙色をしています。飛んでいる昆虫を捕らえます。「オーシーツクツク　ホーピッピコロ」と大きな声でさえずります。地鳴きは「ピッピッ」と鳴きます。
（夏鳥）

写真提供：簗川堅

ハギマシコ
＜アトリ科＞
　主に冬鳥として渡来し、山地や海岸の崖などでよく見られ、崖近くの草原や農耕地でも見られます。「ジュンジュン」や「ギュジュジュ」と鳴きます。数羽から数十羽の群れで行動します。地上で草の実などを食べます。
（冬鳥）

写真提供：簗川堅

オナガ
＜カラス科＞
　平地から山地の農耕地周辺の林に生息しています。翼と尾は青灰色で、尾が長く、県内では３０年前頃から観察され始め、今は各地で見られます。「ギューイギューイ」と尻上がりに鳴き、樹上や地上で昆虫や木の実を食べます。
（留鳥）